

こまがた元気プラン

駒形地区の将来像

住みよく元気な「こまがた」の創造

～田舎暮らしはステータス～

将来像の実現に向けて

みんなでつなごう未来へ！“悠久の里・駒形”



(喜多方市指定天然記念物「杓子ヶ入メグスリノキ」を背に駒形小学校の子どもたち)

こまがた元気会

令和6年2月

1 駒形地区の概況

駒形地区は喜多方市塩川町の東部、雄国山麓の裾野に位置し、豊かな農山村資源・歴史・文化・人財等を有する、人口約 1,800 人、世帯数約 680 戸の農村地域であるが、近年は少子高齢化と人口減少が進み、空き家・耕作放棄地・鳥獣被害の増加、農業の担い手不足、集落の維持困難等の様々の課題も生じています。

†現在の駒形地区は、昭和 29 年(1954)の町村合併までの旧駒形村の区域であり、23 の集落(行政区)で構成され、19 集落が駒形小学校の学校区、4 集落が塩川小学校の学校区となっています。

†地区の西部の平坦地は水田が広がり、そこから東側の丘陵地は畑地さらに雄国山麓の森林地域へと広がりを見せています。

†縄文時代後期の遺跡の発掘が進められるなど長い歴史を有し、由緒ある寺社や伝承・祭り、雄国山麓の豊かな自然と景観、日橋川や山麓からの清流が潤す里の水田など、駒形地区の誇る“宝”は数多くありますが、これら地域資源を含む地区の現状と課題等については、なお「こまがた元気ビジョン」(後記)を参照願います。

2 こまがた元気会の取組経過

地区の現状と課題を踏まえながら、少しでも地区の発展に貢献しようと、令和元年 7 月に関係団体・有志により「こまがた元気会」(以下「元気会」という。)を結成し、次のような活動を進めてきています。(詳細は資料 1)

○令和元年度 実践検討部会を順次立上げて地域資源の保全・活用と課題対応に向け検討・実践

*市指定天然記念物メグスリノキの実生活動*八百比丘尼尊の伝承活動*花の植栽・育成による景観づくり活動*身知らず柿の活用活動*地区内での支え合い活動(生活支援支え合い会議)等

○令和 2 年度 地区の将来像とその実現に向けた基本的な取組構想(グランドデザイン)(資料 2)を盛り込んだ「こまがた元気ビジョン」(以下「ビジョン」という。)を策定

地区の将来像 住みよく元気な「こまがた」の創造～田舎暮らしはステータス～

重点取組分野 A「農」を基盤とした持続可能な里づくり

B 雄国山麓の魅力を活かした憩いと癒しの里づくり

C 歴史・文化・産業遺産を後世につなぐ里づくり

D 共に支え合う安全・安心な里づくりー交流・活動拠点づくり

○令和 3 年度 ・地区の交流・活動拠点「里の駅こまがた元気館」(JA 施設を借用)を開設

- ・元気館に専任職員1名を配置（市集落支援員）
- ・ビジョンの4重点取組分野ごとに検討グループを設け、実践検討部会と連携して活動開始 等
- 令和4年度
 - ・農産物直売所「こまがた元気マルシェ」の開設・運営（5月～）
 - ・「会津の八百比丘尼さま」絵本を作成配布（2,000部作成、地区全戸・関係機関等へ配布）
 - ・集落のいきいきサロンづくりを進めるとともに、健康づくりサポートチームを立ち上げて健康相談活動を開始 等
- 令和5年度
 - ・地域おこし協力隊1名を配置（5月～）
 - ・地区内の空き家を市補助金を活用して改修整備し、12月より新館として事務所及び地区の交流・活動拠点として利用を開始 等
- 併せて、広報紙「こまがた元気会だより」「駒形健康づくり通信」の発行とホームページにより広報活動を継続しています。

3 新たな取組に対する検討と方向性

○現状と課題

これまでの取組により一定の成果を挙げてきているものの、全国的な趨勢と同様に少子高齢化、人口減少の基調は依然として継続している状況にあります。

◇駒形地区の最近5年間の人口等の推移(各4月1日現在住民基本台帳) (人・%)

世帯数			人口			65歳以上人口（高齢化率）		
H31	R5	増減	H31	R5	増減	H31	R5	増減
705	687	-18	1,994	1,811	-183	807 (40.5)	787 (43.5)	-20(3.0)

令和5年10月に行った行政区長へのアンケート調査（以下「アンケート」という。取りまとめ結果は資料3）においては、集落ごとの上記人口等の推移の数値を示しましたが、「今後も人口・世帯の減少が続くと思われ心配している」との回答が約8割となっています。

また、空き家、耕作放棄地、鳥獣害、後継者等の諸課題に対しても懸念を示す回答が多く、課題に対する対応としては、「このままの状況で致し方ない」が約42%と多く見られたものの、「複数の集落の連携、集落外からの人・活力・資金・アイデア等の呼び込み、地区等のより広い範囲での協力、先端技術の取入れ」等により課題解決に取り組むとする回答もそれぞれ約16~26%（複数回答可）あり、改めて対応策を講じていく必要があることがうかがわれます。

○今後の取組の検討と方向性

このような状況に対応し、上記A～Dの4検討グループを中心に協議を重ね（資料

4)、上記アンケートのほか、先進地視察研修（資料5）や有識者による講演会（資料6）などを実施し、それらの内容も踏まえて今後の取組を検討してきました。

そのような中で、ビジョンに基づく活動は緒に就いたばかりであり、ビジョンに掲げる地区の将来像の実現に向けて、4重点分野を中心として取組のさらなる具体化、進化（深化）を図る必要があると認識されたところです。

4 新たな計画の策定と趣旨

- 上記の検討を踏まえ、ビジョンの進化（深化）を図るため、その実行計画ともいうべき「こまがた元気プラン」（以下「プラン」という。）を策定するものです。
- ビジョンは、今後とも取組の方向性を示す指針として、データの更新等を図った上で、今後10年間（令和6年度～15年度）延長します。
- プランは、ビジョンに掲げる地区の将来像「住みよく元気な『こまがた』の創造～田舎暮らしはステータス～」の実現に向け、4重点分野ごとに今後3年間（令和6年度～8年度）に重点的に取り組む事業・活動を次の4プロジェクトとして取りまとめ、併せて交流・活動拠点の機能強化、情報収集や情報発信（広報等）、IT化対応など各取組を支援する共通プログラムを取りまとめています。

- A：「農」を基盤とした持続可能な里づくりプロジェクト（略：「農」基盤プロジェクト）
- B：雄国山麓の魅力を活かした憩いと癒しの里づくりプロジェクト（略：雄国山麓プロジェクト）
- C：歴史・文化・産業遺産を後世につなぐプロジェクト（略：歴史・文化等プロジェクト）
- D：共に支え合う安全・安心な里づくりプロジェクト（略：支え合いプロジェクト）
- α：活動支援共通プログラム（略：共通プログラム）

5 プラン推進の視点

少子高齢化、人口減少の趨勢が続く中、当面はそのような状況にしなやかに対応しながら反転攻勢を窺うことになると考えられます。

そのためには、行政（国・県・市）の基盤となる施策展開に呼応して、駒形地区としても地域特性（地域資源等はビジョン参照）を踏まえた自主的な取組を進めることが求められます。本プランは、そのような取組の指針としての役割を担うこととなります。

これまでの取組成果を踏まえ、さらには次のような視点に立って、各方面との連携・協働を一層強めながら新プランの推進を図ってまいります。

(1) 様々な連携・協働～支え・つながり・変える！駒形～

- ① 地区内の人々・集落・団体・学校・施設・企業等による協働（地区内みん

なで支え合い)

- ② 近隣地域との協働（隣のマチ・ムラとの助け合い）
- ③ 地区外の各方面からの協力（人・活力・資金・情報・アイデア等）
- ④ 地域から世界へ持続可能な社会づくりを発信（持続可能な社会へ変える）

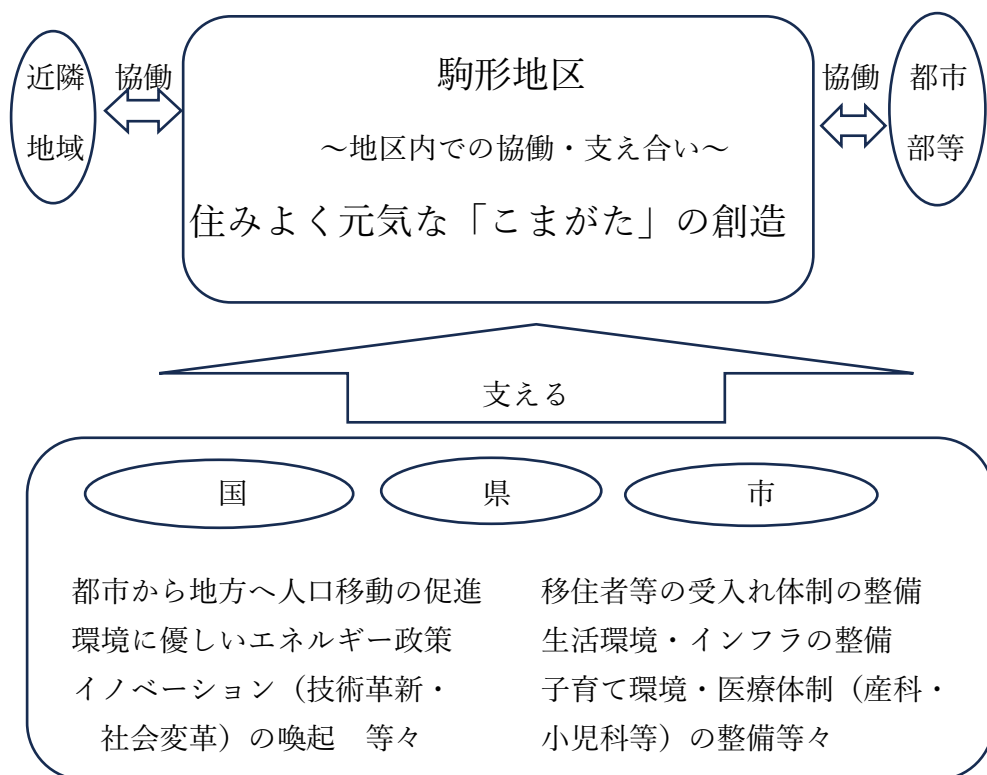
(2) コミュニティビジネス・コミュニティサービスの展開

コミュニティビジネス

地域の人々が主体となって、地域の課題に対応した事業を小規模であってもビジネス化して行うこと。これまでも立ち上げたばかりの農産物直売所が軌道に乗りつつあり、このような地域の中の「小さな商い」の更なる展開を図る。

コミュニティサービス

地域の人々が主体となって、ボランティア活動のように地域にとって何らかの貢献ができるような活動を行うこと。これまでも健康づくりサポートチームが立ち上がり集落等に出向いて健康相談活動を行ってきており、このような活動の更なる展開を図る。



6 プランの推進体制

プランの推進に当たっては、各グループ及び実践検討部会（ α 共通プログラムにあつては事務局・連携調整部会）を中心に活動の担い手を募りながら事業・活動の具体化の検討と実践、連携調整部会がその円滑な実施に向けての連携・調整と評価の役割を担います。

7 プロジェクト及び事業・活動 （ 次頁～ ）

プロジェクト及び事業・活動

A:「農」を基盤とした持続可能な里づくりプロジェクト

事業・活動名 (取組概要)	年次計画		
	R6	R7	R8
◎おいしい“駒形”お届け事業			
○農産物直売所(マルシェ)の整備拡充事業 [R3に立ち上げたマルシェの利用が伸びており一層の事業展開を図り地域内での経済循環を促進する。 *出荷者(会員)・購買者の増加促進 *販売施設の整備拡充(建物のリース又は購入等) *施設設備の整備(電気、防犯設備等) *敷地の環境整備(案内板、緑化・美観向上等)	施設・設備の整備着手	継続して	整備充実
○農産物加工スタートアップ支援事業 [マルシェ会員を中心に農産物加工チームを立上げ、試作～販売を手がけ、地域内での取組に普及する。 *加工施設・設備の利用環境整備(借用～整備) *加工用農作物の栽培・収穫(柿、サツマイモ等～順次拡大) *加工品製造(干し柿、干し芋・焼き芋、ジャム等～順次拡大)	施設借用等 作物栽培 製造着手	施設等整備	整備充実 順次拡大 順次拡大
○“まるごと野菜”体験・交流事業 [農作物(特に野菜)の栽培・収穫・加工・販売、堆肥づくり等一連の過程を小学生や地区内外の希望者ととともに体験・交流する。 *実施場所の確保と整備 *希望者の募集 *体験・交流事業の実施	実施体制整備・試行	本格	実施
◎「空き家+遊休農地」活用の滞在・交流促進事業 [地区内の利用できる空き家・有休農地を調査・把握・リスト化して農業体験や移住等の希望者の利用に供する。 *空き家・有休農地の調査、所有者・管理者との交渉 *空き家・有休農地の利用環境整備、農業指導者の確保 *空き家・有休農地の利用提供 *本格的な滞在型市民農園整備の調査・検討	空き家等調査開始 体制整備 調査・検討	本格	実施 継続

◎新規就農(希望)者活動支援事業

新規就農(希望)者への情報提供や情報交換の場を設ける等活動を支援する。

- *情報提供、専門家の紹介等
- *情報交換の場の設定

情報交換
会等開始

内容充実

し継続



B:雄国山麓の魅力を活かした憩いと癒しの里づくりプロジェクト

事業・活動名 (取組概要)		年次計画		
		R6	R7	R8
◎「まるごと駒形こまがたミュージアム構想」事業(自然編)				
○自然ふれあい拠点整備・活用事業 [桜の名所で自然体験活動の場となっている南原堤の環境整備を図り、更なる自然観察・体験活動を展開する。 *遊歩道・ビオトープ(水辺の生き物の生息環境)等の整備(行政等で実施しない箇所) *桜の保全や動植物の生育環境の継続的な整備 *関係団体と連携した環境学習・体験活動の展開 *関係団体と連携し桜の観賞・交流会(企画を新たに桜祭りの開催)	関係者協議 整備着手 体験活動等実施	継続 継続実施 内容を充実し継続		
○雄国山麓の“お宝”掘り起こし事業 [雄国山麓の自然資源を改めて確認・調査し、新たな魅力を付加し(ブラッシュアップ)、活用にする。 *貴重な森林資源の保全・啓発(関係団体と連携し市指定天然記念物メグスリノキの保全等) *“ディープな(≡難易度の高い)山麓の探検隊”活動(旧登山道・湧水・巨木等) *樹木等森林資源の新たな資源化支援(木工、成分の活用等) *そば打ちの技の普及・向上と蕎麦(麵)の提供(イベント等～蕎麦処の開設支援等)	資源調査等活動実施 資源調査・事業化検討 講習会開設	継続 順次事業化 継続	実施 実施	
○“ぶらっと”里巡り環境整備事業(自然編) [個人や団体で駒形の里山の魅力を、安全・安心に巡って堪能するために、見どころの整備や情報発信を行う。 *所有者・管理者の協力のもとビューポイントの整備 *特に景観(駒形を・駒形から望む景観)の素晴らしさをアピール *案内板の整備 *ガイドマップや冊子の作成(関連イベント等でも活用)	地区内調査調査を踏まえ整備・作成着手	順次環境	整備・作成	

<p>○“カントリーウォーク” 事業(自然編)</p> <p>自然その他駒形の魅力を丸ごと体感するウォーキング(フットパス:地域の特徴を活かしたコースを楽しみながら歩く。)を実施する。(Aの農業体験、Cの歴史・文化、Dの健康づくり等、それぞれのテーマで又は組み合わせて実施)</p> <p>*コースの企画・開発(テクノアカデミー会津観光プロデュース科へ協力要請)</p> <p>*地元食材を活用した食事の提供(おにぎり等、Aと連携、関連イベント等でも協力)</p> <p>*案内板、ガイドマップ等整備(上記里巡り事業記載)</p>	<p>関係者協議</p> <p>コース企画</p> <p>試行</p> <p>試行</p> <p>(里巡り)</p>	<p>継続</p> <p>本格実施</p> <p>本格実施</p> <p>事業参照</p>	<p>→</p> <p>→</p>
<p>○花で彩る里づくり事業</p> <p>駒形の里にふさわしい花木の保護・育成、遊休農地等も活用した新たな植栽等を進める。</p> <p>*「駒形さくら十景」(選定中)の魅力発信</p> <p>*ざる菊園地の拡充整備と鑑賞に向け環境整備</p> <p>*活動に協力する愛護会等の発足</p>	<p>関係者協議</p> <p>植栽活動</p> <p>会立上げ</p>	<p>協力者を</p>	<p>増やし継続</p> <p>→</p>
<p>○レクリエーション等の新たな交流・活動拠点の整備検討</p> <p>里地・里山の立地を活かし地区内外の人々が憩い・交流・活動できる拠点づくりについて情報収集・調査・検討等を進める</p> <p>*旧営林署苗畑を活用した森林公園整備構想等</p>	<p>継続して</p>	<p>調査検討</p>	<p>→</p>

C:歴史・文化・産業遺産を後世につなぐ里づくりプロジェクト

事業・活動名 (取組概要)	年次計画		
	R6	R7	R8
◎「まるごと駒形ミュージアム構想」事業(歴史・文化編)			
<p>○“ぶらっと”里巡り環境整備事業(歴史・文化編)</p> <p>寺社・古墳・館・石碑・堰・美術品・工芸品・工房・ガーデニング(庭づくり)・祭り等の歴史的・文化的な資源を再確認し、個人や団体での見学・体験等に活用するための環境整備と情報発信を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 資源の確認・調査活動 * 所有者・管理者の協力のもとに訪問・体験等の受入体制の整備 * 案内・説明の対応(ボランティアガイドの育成等) * 案内板、ガイドマップ・冊子等の整備(Bの里巡り事業と連携) * 地域の祭りの継承支援 	<p>地区内調査 関係者協議</p> <p>事業着手 (Bと連携)</p>	<p>調査・協 順次実施</p>	<p>議を継続し 体制を整備</p>
<p>○“カントリーウォーク”事業(歴史・文化編)</p> <p>歴史・文化的な資源(上記)を組み入れたコースを設定してウォーキングを実施する。(B事業と連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 案内・説明の対応(上記) * 体験型メニューも用意(陶芸、竹細工等) 	(Bと連携)		
◎“悠久の駒形!”学習・発信・伝承事業			
<p>駒形地区の歴史・文化等を継続して学習し、対外的な発信や後世につなぐ伝承活動を進めるとともに、新たな文化の創造につながる活動を展開する。(地区公民館と連携)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地区内外の有識者を講師とした学習会の開催 * 藤権現遺跡の発掘(調査中)成果を共有(ミニフォーラム等) * 「狐堰」の文化財登録に向けた活動 * 調査・学習活動の成果を踏まえた資料等の作成と発信(八百比丘尼尊の紙芝居による伝承活動等) * 音楽や美術などに関する学習会やイベントの開催 	<p>内容を</p>	<p>充実継続し</p>	<p>て実施</p>

D:共に支え合う安全・安心な里づくりプロジェクト

事業・活動名 (取組概要)	年次計画		
	R6	R7	R8
◎みんなで見守る“あったか里づくり”事業			
<p>○“駒形げんきお助け隊”事業</p> <p>【高齢者等の日常生活での困りごと(家事や庭の除草など)について“お助け隊”に登録された身近な方々が「ちょっとした手助け」を有償ボランティア活動として行う。</p> <p>*お助け隊員の登録 *利用希望者とお助け隊員の橋渡し(マッチング) *希望内容に応じたお助け隊員による「ちょっとした手助け」活動の実施</p>	<p>隊員募集等 事業着手</p>	<p>内容・規模</p>	<p>を拡充継続</p>
<p>○“ちょっと一口”お届け事業</p> <p>【高齢者世帯等への支援として、小学校とも連携し、地元食材等を使った手作り弁当等にメッセージを添えて配達し、生活状況などの把握も行う。</p> <p>*対象者の把握・希望確認 *弁当等とメッセージの作成・配達</p>	<p>対象者把握 等事業着手</p>	<p>内容・規模</p>	<p>を拡充継続</p>
◎ふれあい交流拠点づくり事業			
<p>○“いきいきサロンの輪”づくり事業</p> <p>【集落のいきいきサロン(集いの場)づくりとその活動を継続して支援するとともに、元気会の新館(駒形げんき交流館)を新たな交流活動の拠点として充実を図る。</p> <p>*新館を自由に集い交流する場として使用(ミニイベント等) *各集落サロンの交流会 *地区サロン(地区全体のモデル・模範的な開催)</p>	<p>利用提供</p>	<p>環境整備を</p>	<p>図り継続</p>
<p>○“お茶の間保健室”事業</p> <p>【新館を利用し、健康づくりサポートチームを中心に、健康相談や介護の悩みの相談などに気軽に対応する。</p> <p>*健康相談や介護相談等の対応 *育児・子育て相談等の対応 *関係機関(市・社会福祉協議会・地域包括支援センター等)との連携</p>	<p>事業開始</p>	<p>内容・体制</p>	<p>を拡充継続</p>

<p>○“みんなで子育て応援隊”事業</p> <p>〔新館を利用し、子(主に幼児)と親や孫と祖父母等がい楽しく交流する。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> *“オヤオヤなあ～に?”お話し会・子どもを遊ばせながら親は子育て談義などで交流する。 *“マゴマゴげんき!”お遊び会・孫を遊ばせながら祖父母は世間話などで交流する。 	<p>事業開始</p>	<p>内容・体制を</p>	<p>充実し継続</p>
<p>○“げんき・キッズ塾”事業</p> <p>〔子どもたち(主に小・中学生)が自由に立ち寄れる場として新館を利用してもらうとともに、特に、他ではできない学習や習い事等の活動をボランティアの講師により支援する。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> *“おさらい”教室・・・苦手な科目や伸ばしたい科目等 *“おたの趣味”教室・・・囲碁、将棋、料理、イラスト等 *子どもたちと講師のマッチング(講師の募集と子どものニーズ把握) 	<p>事業開始</p>	<p>内容・体制を</p>	<p>充実し継続</p>
<p>◎“カントリーウォーク”事業(健康づくり編)</p> <p>〔健康づくりの一環として、B・Cと連携してウォーキングを実施する。〕</p> <ul style="list-style-type: none"> *コース企画等はBの記載参照 *特に歩いた距離がわかるようなコース設定 	<p>(Bと連携)</p>		

α:活動支援共通プログラム

事業・活動名 (取組概要)	年次計画		
	R6	R7	R8
<p>○交流・活動拠点の整備・充実</p> <p>ビジョンを踏まえ地域の交流・活動拠点づくりを引き続き推進し、従前の「こまがた元気館」や新たな「駒形げんき交流館」等の必要な設備整備等、交流・活動拠点としての機能の整備・充実を図る。</p>	継続して	整備・充実	を図る。→
<p>○情報収集・学習・リーダー育成活動</p> <p>各取組が円滑かつ効果的に進められるよう情報収集に努めるとともに、先進事例調査や有識者による講演会・学習会の開催などを適時に実施する。併せて、これら活動を通して、これからの駒形を担うリーダーの育成に努める。</p>	内容を	充実し継続	→
<p>○情報発信活動</p> <p>「こまがた元気会だより」「駒形健康づくり通信」等の広報紙やホームページなどの内容充実を図りながら継続するとともに、SNS(ソーシャルネットワークサービス:登録された利用者同士で交流できるインターネット上の会員制サービス)を効果的に利用した情報発信に努める。</p>	内容を	充実し継続	→
<p>○IT化対応活動</p> <p>地域を取り巻く諸課題にICT(情報通信技術)の活用が求められる中、当取組にも応用できないか、会津大学、アイクト(AiCT)及び関連企業等の支援・協力を得て可能性を探る。</p>	関係者	協議し継続	→

資料 1

こまがた元気会の取組経過

駒形地区の現状と課題を踏まえながら、少しでも地区の発展に貢献しようと、令和元年7月に関係団体・有志により「こまがた元気会」を結成して活動を進めてきている。

<活動経過>

○令和元年7月7日 発足

- ・ 21 の関係団体・有志が代表者等懇談会を構成（→現在 32 団体・人）
- ・ 実践検討部会を順次設置し学習・検討・実践

- ① メグスリノキ発芽プロジェクト(R1.10.29)
- ② 八百比丘尼尊にあやかる美と長寿の里づくり茶話会(R2.6.30)
- ③ 花で彩る駒形の里づくり実践検討部会(R2.7.2)
- ④ こまがた元気ビジョン（仮称）づくり作業部会(R2.7.4)
→こまがた元気ビジョン連携調整部会に改組(R3.1.30)
- ⑤ 身の程知らぬ「柿のまるごと活用」実践検討部会(R2.7.10)
- ⑥ 駒形地区生活支援支え合い会議「げんきネットこまがた」(R2.2.22)

○令和2年度

- ・ 喜多方市協働のまちづくり補助金（プラン策定枠）の採択を受け、「こまがた元気ビジョン」を策定

* 将来像「住みよく元気な『こまがた』の創造～田舎暮らしはステータス」

* 4本の重点取組分野

- A 「農」を基盤とした持続可能な里づくり
- B 雄国山麓の魅力を活かした憩いと癒しの里づくり
- C 歴史・文化・産業遺産を後世につなぐ里づくり
- D 共に支え合う安全・安心な里づくりー交流・活動拠点づくりー

- ・ 各実践検討部会の活動を継続

○令和3年度

- ・ 喜多方市協働のまちづくり補助金（活動支援枠）の採択を受け、「こまがた元気ビジョン」に基づく活動を展開

* 地区の交流・活動拠点「里の駅こまがた元気館」を開設

* 元気館に市集落支援員（常勤）1名を配置し、世話人として活動

* ビジョンの4重点分野（A～B）ごとに検討グループを設け、実践検討部会との連携のもとに活動を開始

○ 令和4年度

・「こまがた元気ビジョン」に基づく活動の2年目として、喜多方市協働のまちづくり補助金（活動支援枠）の採択を受け、引き続き「里の駅こまがた元気館」の維持・運営と、これまでの活動の充実・発展、さらにA～Dの各重点分野について、検討グループ・実践検討部会が連携し検討・協議を行い、できるところから具体的な実践活動を進めた。

なお、広報活動として、「こまがた元気会だより」「駒形健康づくり通信」を継続して発行し、3月にはホームページを立ち上げた。

＜具体化した主な取組＞

A（農基盤）グループ

* 農産物直売所「こまがた元気マルシェ」の開設・運営（5月～）

B（雄国山麓）グループ

* そば打ち講習会「あなたのそばがいい塾」の開講

* ざる菊の栽培・園地づくり

* 「一重陶房」を活用した交流会の開催（春の新緑の会・秋の芋煮会）

C（歴史・文化等）グループ

* 「会津の八百比丘尼さま」絵本を作成・配布（2,000部作成、駒形地区各世帯、関係機関・施設等へ配布）

D（支え合い）グループ

* 「生活支援支え合い会議」による活動の継続、特に、集落のいきいきサロン（集いの場）づくりを支援（令和3年度より新たに3集落設置）

* 健康づくりサポートチームの設置（6月～）

○ 令和5年度

・「こまがた元気ビジョン」に基づく活動の3年目として、喜多方市協働のまちづくり補助金（活動支援枠）の採択を受け、引き続き活動を展開。併せて、次のような新たな活動展開を図っている。

* 福島県の「地域総合支援事業（サポート事業）」の「過疎・中山間地域活性化枠（集落等活性化事業）」の採択を受け、令和6～8年度の本格的な事業展開に向け、新たな計画「こまがた元気プラン」の策定の取組。

* 地域おこし協力隊1名が5月から配置。

* 新しい活動・交流拠点として、竹屋・田中集落内の故大川原栄喜氏の関連物件について、喜多方市の空き家再生推進補助金を活用して解体・改修し、9月からは更地にした場所に直売所（マルシェ）を移転・設置し、12月からは改修した母屋を事務所ほか交流の場として利用。

<主な活動>

- * マルシェは、5～8月が元気館で、9月から12月末は上記場所で営業。110万円超の売上げとなった。
- * 生活支援支え合い会議の重点取組である「いきいきサロン」の設置について、新たに2集落で設置、近く1集落で設置予定
- * 健康づくりサポートチームも、各サロンや地区文化祭等で積極的に健康相談活動を実施。
- * 花で彩る里づくり部会では「ざる菊」栽培・園地づくりに継続して取り組み、柿のまるごと活用部会は新たに「干し柿」づくりに取り組み、八百比丘尼様では絵本に引き続き「紙芝居」づくりを開始
- * 昨年に引き続き、11月に「一重陶房」で芋煮会を開催
- * 駒形小学校との連携・協働活動として、9月に「ふるさとタイム」(地域の方々が講師の学習活動)、10月に南原堤での枝垂れ桜の植樹と杓子ヶ入メグスリノキ見学を実施。また小学校の農業科で作った農作物(コメ・サツマイモ等)をマルシェで販売

こまがた元気ビジョン(抜粋) 計画期間: 令和3年度～令和5年度

○駒形地区の将来像

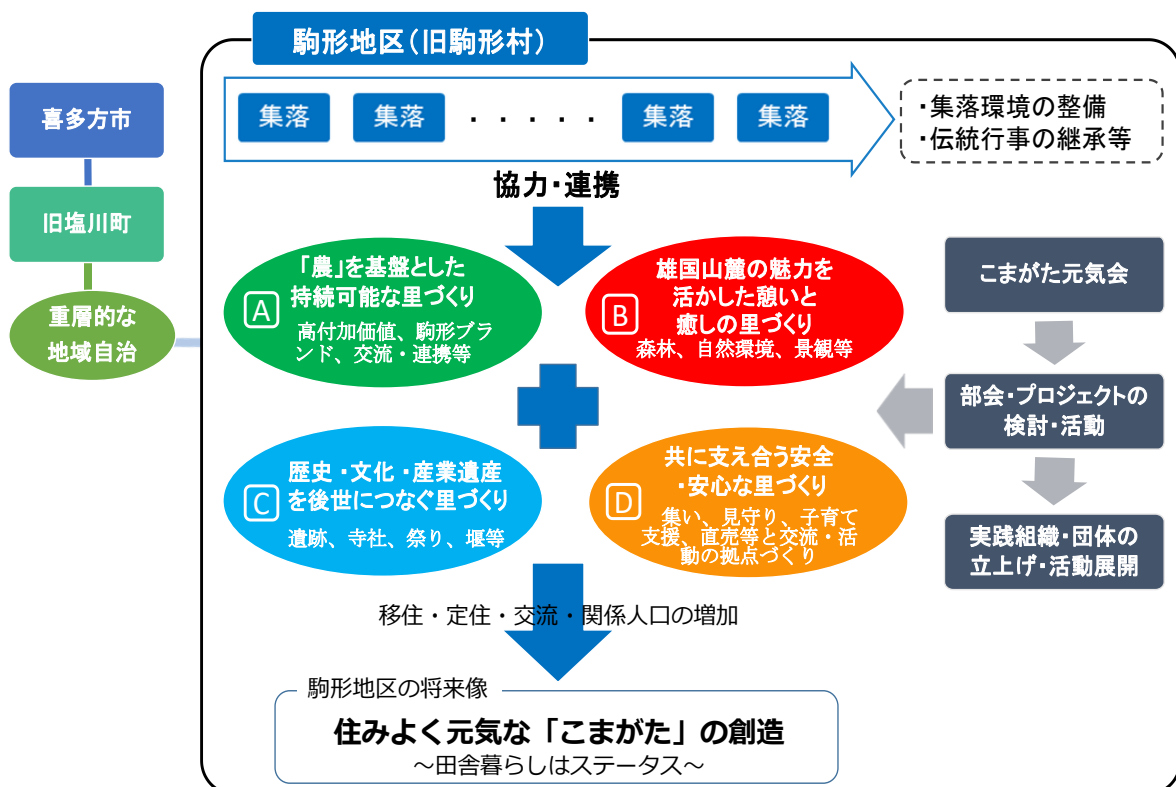
将来像は、将来に向けて目指すべき駒形地区の姿を示すものです。地区の現状と課題から、駒形地区の目指すべき将来像を次のように設定しました。

住みよく元気な「こまがた」の創造 ～ 田舎暮らしはステータス ～

この将来像には、文字通り暮らしやすく、活気あふれる駒形の里を、私たち一人ひとりが誇りと夢を持って創っていくという思いが込められています。

○将来像の実現に向けた重点的な取組分野と基本的な取組構想 【 グランドデザイン 】

駒形地区における対応すべき分野に対応する4本を柱とする重点的な取組分野に整理し、これらを総合的に進めるための取組構想「元気な駒形の里づくり」グランドデザインのとおりに設定しました。



資料 3

駒形地区の集落（行政区）の状況に関する行政区長アンケート結果集計表

令和 5 年 10 月実施 23 行政区中 19 行政区回答（回収率 82.6%）

1-(1)65 歳以上の一人暮らしは何人(世帯)いますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	2pt	10.5%
1 人(世帯)	4pt	21%
2 人(世帯)	6pt	31.5%
3 人(世帯)以上	7pt	36.8%

1-(2)子供たちは何人ぐらいいますか？

	回答項目	回答数	回答率
学 齢 前	1 人	3pt	15.7%
	2 人	5pt	26.3%
	3 人以上	7pt	36.8%
小 学 生	1 人	2pt	10.5%
	2 人	4pt	21%
	3 人以上	8pt	42.1%
中 学 生	1 人	3pt	15.7%
	2 人	6pt	31.5%
	3 人以上	3pt	15.7%
高 校 生	1 人	4pt	21%
	2 人	1pt	5.2%
	3 人以上	2pt	10.5%

1-(3)最近 3 年間ぐらいで転入された方はいますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	8pt	36.8%
結婚による	1pt	5.2%
帰省者	2pt	10.5%
I ターン	7pt	36.8%

1-(4)今後の人口・世帯推移についてどう考えますか？

回答項目	回答数	回答率
今後も人口・世帯の減少が続くと思われ心配している。	15pt	78.9%
当面は人口・世帯数はほぼ変わらないと思われ心配はしていない。	3pt	15.7%
わからない	1pt	5.2%

2-(1)

集落内(駒形地区内のことでも結構です)の道路、水路、危険箇所等で改修・整備が必要のところはありますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	9pt	47.3%
あり	6pt	31.5%
無回答・わからない	4pt	21%

※「あり」・・・道路拡張・改修、歩道・横断歩道設置、水路改修・清掃 等

2-(2)

合併浄化槽を設置している世帯は何割ぐらいですか？

回答項目	回答数	回答率
なし	1p	5.2%
1～3割ぐらい	6p	31.6%
4～6割ぐらい	3p	15.8%
7～8割ぐらい	7p	36.8%
無回答・わからない	2p	10.5%

3-(1)

自家用車を持たないか運転しない世帯がありますか？

回答項目	回答数	回答率
自家用車を所有	7pt	36.8%
自家用車なし・運転しない	12pt	63.1%

3-(2)

3-(1)の世帯の買物や医療機関等への移動手段はどのようにしていますか？(複数選択可)

回答項目	回答数	回答率
乗合バス利用	3pt	15.7%
近くの家族が送迎	6pt	31.5%
近所の人たちが送迎	1pt	5.2%
医療機関の送迎	5pt	26.3%
民間タクシー利用	6pt	31.5%
のりーと利用	3pt	15.7%
その他	3pt	15.7%
回答なし	4pt	21%

3-(3)自宅の除雪について、高齢世帯(全て 65 歳以上)はどのようにしていますか？

(複数選択可)

回答項目	回答数	回答率
自分でやっている	18pt	94.7%
近くの家族が対応	3pt	15.7%
近所の人たちが対応	8pt	42.1%
民間業者に依頼	0pt	0%
除雪支援制度を利用	1pt	5.2%
その他	0pt	0%

3-(4)集落に消防団員が何人いますか？(複数集落で消防団を構成している場合は、他の集落名を記入してください。)

回答項目	回答数	回答率
0 名	3pt	15.7%
1 名	2pt	10.5%
2 名	4pt	21%
3 名	1pt	5.2%
4 名	5pt	26.3%
5 名	3pt	15.7%
6 名以上	1pt	5.2%

※ 複数集落での消防団構成が 4 か所 (各 2~4 集落) あり

3-(5)自主防災組織を設けていますか？

回答項目	回答数	回答率
あり	1pt	5.2%
なし	17pt	89.4%
無回答	1pt	5.2%

4-(1)

稲作を行っている(出荷している)農家は何世帯ですか？

回答項目	回答数	回答率
0~2 世帯	5pt	26.3%
3~5 世帯	5pt	26.3%
6 以上	7pt	36.8%
無回答	2pt	10.5%

4-(2)

4-(1)のうち後継者のいる世帯は何世帯ですか？

回答項目	回答数	回答率
0～5 世帯	12pt	36.8%
6～10 世帯	1pt	5.2%
10～15 世帯	3pt	15.7%
無回答	3pt	15.7%

4-(3)

稲作以外で出荷している農家は何世帯ありますか？

回答項目	回答数	回答率
0～1 世帯	7pt	36.8%
2～4 世帯	7pt	36.8%
5～6 世帯	2pt	10.5%
無回答	3pt	15.7%

4-(4)

耕作放棄など管理されていない農地はどのくらいありますか？(10a=約1反)

回答項目	回答数	回答率
なし	6pt	31.5%
約10a未満	2pt	10.5%
約10～50a未満	4pt	21%
約50a以上	4pt	21%
無回答	3pt	15.7%

4-(5)

最近3年間ぐらいに農地・農作物への鳥獣被害はありましたか？

回答項目	回答数	回答率
なし	7pt	36.8%
あり	9pt	47.3%
無回答	3pt	15.7%

4-(6)

電気柵設置などの獣害対策は実施されていますか？(行っている場合複数回答可)

回答項目	回答数	回答率
特に対策はされていない	7pt	36.8%
個人で行っている	9pt	47.3%
共同で行っている例もある	1pt	5.2%
集落として取り組んだことがある	0pt	0%
無回答	2pt	10.5%

5-(1)

空き家は何戸ありますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	3pt	15.7%
1～2戸	6pt	31.6%
3戸	4pt	21.1%
4～5戸	4pt	21.1%
6～7戸	1pt	5.3%
無回答	1pt	5.3%

※ 市営住宅の空き部屋は含まれていません。

5-(2)

5-(1)で空き家がある場合、どのような状況ですか？(複数回答可)

回答項目	回答数	回答率
そのままでも使用・居住可能	5pt	26.3%
ある程度修繕が必要	11pt	57.8%
倒壊等危険な状態	1pt	5.2%
無回答	5pt	26.3%

6-(1)

現在行っている共同作業はありますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	1pt	5.2%
あり	17pt	89.4%
無回答	1pt	5.2%

※「あり」・・・草刈り、水路浚い、道路砂利敷き、花植え 等

6-(2)

現在行っている祭りや伝統行事はありますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	7pt	36.8%
あり	12pt	63.1%
無回答	0pt	0%

※「あり」・・・神社祭礼、大般若、歳の神、盆踊り 等

6-(3)

集会所の維持管理に関して課題はありますか？

回答項目	回答数	回答率
なし	14pt	73.6%
あり	5pt	26.3%
無回答	0pt	0%

6-(4)

「いきいきサロン」は行われていますか？

回答項目	回答数	回答率
行っている	7pt	36.8%
行っておらず予定もしていない	10pt	52.6%
行っていないが実施を検討したい	1pt	5.2%
無回答	1pt	5.2%

7-(1)

地域の良いところや資源などがありますか？

回答項目	回答数	回答率
特にない	15pt	78.9%
あり	4pt	21%
無回答	0pt	0%

※「あり」・・・自然・景観、そば、南原堤の桜、古墳、伝統文化 等

7-(2)

地域として守りたい・残したい行事やイベント等がありますか？

回答項目	回答数	回答率
特にない	15pt	68.4%
あり	4pt	21%
無回答	2pt	10.5%

※「あり」・・・神社祭礼、盆踊り、夏そば花ウォーク、花火大会 等

8-(1)集落の課題として改めてどのようなことが挙げられますか？(複数回答可)

回答項目	回答数	回答率
住民どうし・世代間交流	7pt	36.8%
草刈り、河川掃除など道路・河川の維持管理	11pt	57.8%
公園、集会場の維持管理	4pt	21%
農地・山林などの維持管理	7pt	36.8%
植栽、側溝掃除などの美化・保全活動	3pt	15.7%
防火、救命などを含む消防活動	6pt	31.5%
避難訓練・連絡体制などの防災活動	5pt	26.3%
見回りなど、防犯、交通安全活動	2pt	10%
除雪活動	2pt	10%
祭礼、伝統文化の継承	3pt	15.7%
情報の共有	6pt	31.5%
空き家の増加、管理活動	5pt	26.3%
地域の特産物の開発、販売	0pt	0%
リーダーなどの人材育成、確保	2pt	10%
買い物や通院など、交通・移動手段の確保	2pt	10%
日常的な不安や悩みを相談できる場、人の確保	1pt	5.2%
地域内の文化・スポーツ活動	0pt	0%
高齢者を対象として健康づくり、生きがいづくり	4pt	21%
子どもを対象として行事、イベント	1pt	5.2%

8-(2)集落の課題解決方法として、どれに取り組んでみたいと思いますか？(複数回答可)

回答項目	回答数	回答率
複数の集落の連携により、不足を補いながら、地域活動や課題解決に取り組む	5pt	26.3%
集落外からの人・活力・資金アイデア等呼び込むことにより、様々な活動や課題解決に取り組む	4pt	21%
集落と駒形地区等のより広い範囲の地域が協力し、住民自らの企画・実施により課題解決に取り組む	3pt	15.7%
情報技術等の先端技術を取り入れた集落内の様々な活動等の省力化・効率化により課題解決に取り組む	3pt	15.7%
このままの状況のままで致し方ない	8pt	42.1%

資料4

こまがた元気プラン策定経過

- R4.11.6 代表者等懇談会 県サポート事業への申請・新プラン策定の方向性を確認
- R5.6.4 代表者等懇談会 計画策定の取組方針（連携調整部会・各グループでの検討等）を確認
- 6.25 連携調整部会 これまでの元気会活動の振り返りと今後の新たな計画づくりの取組方針を協議
- 7.5 D（支え合い）グループ会議
7.26 A（農基盤）グループ会議
7.27 B（雄国山麓）グループ会議
8.7 C（歴史・文化等）グループ会議
- 各分野での検討方針等の協議
- 9.2 連携調整部会 今後の取組方針を協議（行政区長アンケート、視察研修等）
- 10月 行政区長アンケート 資料3
9～12月 視察研修、講演会 資料5・6
- 12.16 連携調整部会 これまでの取組経過を踏まえ今後のスケジュール等
- 12.19 D（支え合い）グループ会議
12.19 B（雄国山麓）グループ会議
12.20 A（農基盤）グループ会議
12.21 C（歴史・文化等）グループ会議
- これまでの活動を踏まえプランの内容検討
- R6.1.10 D（支え合い）グループ会議
1.16 B（雄国山麓）グループ会議
1.17 A（農基盤）グループ会議
1.19 C（歴史・文化等）グループ会議
- プランの内容検討の継続
- 1.30 B（雄国山麓）グループ会議
1.31 A（農基盤）グループ会議
2.1 C（歴史・文化等）グループ会議
2.1 D（支え合い）グループ会議
- プランの内容検討の継続と取りまとめ
- 2.10 連携調整部会 各グループの検討を踏まえ調整・素案取りまとめ
- 2.18 代表者等懇談会 素案について協議・承認

資料 5

R5 こまがた元気プラン策定に向けた視察研修結果（概要）

日程	参加人員	内容（⇒参考・検討事項等）
9月9日 （土）	2人	<p>○南会津町・奥会津博物館での「奥会津の縄文時代の植物利用を考える」講演会</p> <p>奥会津7町村の文化施設連携による「奥会津の縄文」をテーマとした企画の一つ。ササ類を使ったかご作りや館岩・川衣地区の植物利用等の報告があった。</p> <p>⇒奥会津地域全体を博物館に見立てる「奥会津ミュージアム事業」の一環。赤坂憲雄奥会津ミュージアム館長が指導に当たる。個々の施設・事業だけでない連携協力による相乗効果の発揮。「こまがたミュージアム構想」などとして活かされないか。</p>
9月13日 （水）	6人	<p>○会津坂下町坂本地区・「ファットリアこもと」（農家レストラン）</p> <p>食事を兼ね研修。野菜や卵など自家・地元食材にこだわった料理の提供。食品加工施設も見学。</p> <p>⇒地産地消。新たなメニューの工夫。食品加工は保健所の指導対応が大事。</p> <p>○高郷町磐見地区</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「大谷直売所」（元気マルシェ立上げの際に参考としたところ） ・空き家を改修整備した地割地区食品加工施設 <p>市の補助金により建物改修、県サポート事業で備品類整備。そば打ち場を備える。本格稼働はこれから。</p> <p>⇒施設改修の財源確保。保健所の指導対応が大事。</p>
9月27日 （水）	5人	<p>○二本松市岩代地区・道の駅「さくらの郷」</p> <p>約20年前（H12）農家の女性有志6名がビニールハウスでの直売所を立ち上げたのが始まり。その後町施設となり、任意の管理組合が管理運営。H24に企業組合として法人化。各種補助金を活用して施設も拡大。スタッフのほとんどが女性（約20人）で、阿武隈山地の中山間地に立地するが、地元産品を中心に近年は1億円台の売上げを確保している。</p> <p>⇒小さな一歩が大きく花開く。</p>

10月4日 (水)	14人	<p>○山形県川西町・「NPO法人きらりよしじまネットワーク」</p> <p>H14の町行財政改革に伴う公民館の公設民営化。H19に旧運営組織「社会教育振興会」を母体に全戸加入のNPO法人化。町施設（旧公民館・現地区交流センター）の指定管理者となり、毎年6,000～7,000万円の事業規模で活動を展開している。財源は、各世帯からの会費（@2,000円）のほか、国・県・町の委託金・補助金、自主事業収入等。</p> <p>⇒運営体制を確立するには相当なエネルギーが必要。</p>
10月12日 (木)	6人	<p>○南会津町田島地区での森林資源を活用した取組（㈱芳賀沼製作芳賀沼伸・社長の案内で見学）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・㈱一十八の経営する和精油（アロマオイル）精製工場 <p>蒸留器等を見学。調合体験。目玉は地元で採取されるクロモジからの精油。軽トラ1台≒100kgから約コップ1杯抽出。最近はクロモジの栽培も開始。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「みなみあいづ森と木の情報・活動ステーション『きとね』」 <p>地元の関連企業・団体が入居し、森林・林業に関する情報発信、木育・研修、展示・販売等の機能を担う。</p> <p>⇒「この地域の資源は森林」との芳賀沼社長の熱い想いで地域が動く。</p>
10月25日 (水)	6人	<p>○いわき市田人地区・古民家カフェ「HITO-TABI」</p> <p>阿武隈山地内の田人地区では、これまでも地区協議会が古民家活用して地域の交流拠点・カフェを地域おこし協力隊の協力により運営してきたが、今夏より、協力隊を卒業した紺野琴水さんが会社を立ち上げてこのカフェを運営している。地元食材を使ったランチを提供し、この日も平日にもかかわらず女性客を中心に賑わっていた。</p> <p>⇒条件不利地域でもやれることはある。地域おこし協力隊の力は大きい。</p> <p>○鮫川村（まず役場で概況説明を聞き）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農産物加工・直売所「手・まめ・館」 <p>鮫川村では、「まめで達人な村づくり」のスローガンもと大豆の栽培を奨励し、高齢者などに種子代の補助や、刈取機の貸出し、価格補償で全量買い取りなどに取り組み、地産地消、高齢者の生きがいと健康づくりに繋げている。拠点となる「手・まめ・館」は平成17年にオープン。近年は年間1億円を超す売上げとなっている。</p>

		<p>・鮫川村豊かな土づくりセンター「ゆうきの郷土（さと）」</p> <p>鮫川村では、国の補助を得て整備した「ゆうきの郷土（さと）」を平成 25 年にオープンさせ、牛糞、もみがら、落ち葉、生ごみなどを原料に約 5 か月かけて 900 t の堆肥を生産し、村内外に販売している。</p> <p>⇒地域の資源を活かし、特産品の栽培と健康づくり、環境に優しい循環型の村づくりに取り組んでいる。</p>
11 月 1 日 (水)	5 人	<p>○下郷町「クラインガルテン下郷」</p> <p>下郷町では、平成 21～23 年度までに町有地（6.2ha）を利用し毎年 10 区画ずつ計 30 区画の滞在型市民農園＝クラインガルテン（農地とラウベと呼ばれる簡易宿泊施設付きの市民農園）を整備（町設町営）。1 区画約 300 m²（建物 30 m²・農地 200 m²）。事業費約 4 億円（国県補助あり。町約 2.7 億円）。利用は最長 5 年（冬期間閉鎖）。利用料年額 30 万円を一括前払い。常駐の管理人と農業指導員の指導あり。地元協議会も関わる交流イベントも開催。</p> <p>東日本大震災やコロナなどの困難な状況が続いたが、現在は 100% 稼働。修繕費が増嵩する時期を迎えている。</p> <p>⇒都市と農村の交流拡大を目指すのが、移住・定住に結びつけるのは課題。地理的条件からすると、「雄国山麓」の検討も一考か。</p>

資料 6

R5 こまがた元気プラン策定に向けた講演会結果（概要）

月日	令和5年11月26日（日）	参加者数	13名
テーマ	「落花生を使った幸せ地域づくり」		
講師	松崎 健太郎 氏（APJ 株式会社代表取締役）		
内容 （骨子）	<p>○なぜピーナッツを？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和50年からの10年会津で100町歩生産（地域資源の再生） ・手に入らない原料（オンリーワン） ・ライバルが少なく一点突破（ブルーオーシャン） <p>○農業の可能性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年4月より原産地表示義務化→一次産業にチャンス ・（単に6次化でなく）農商工連携型6次化 →様々な企業と商品開発（太郎庵、塩川屋 etc） <p>○事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農福連携 会津支援学校との連携、障がい者施設への作業委託、障がい者の雇用→障がい者福祉に貢献、手剥100%（高級品） ・生産一次加工を一括で行い、大変な行程（洗浄・選別・乾燥・機械）の課題を解決→ピーナッツセンター整備 ・ラーメンを食べて帰る客を呼び止める→アイツピーナツマート（ソフトクリーム） <p>○地域資源再考→「空き」は資源になる（空き農地、空き家 etc）</p>		

月日	令和5年12月10日（日）	参加者数	16名
テーマ	「『農』を基盤とした地域づくり」		
講師	遠藤 和子 氏（国立研究開発法人 農研機構 農村工学研究部門 研究領域長）		
内容 （骨子）	<p>○地球温暖化対策→環境負荷低減</p> <p>○「人・農地プラン」から「地域計画」へ（農業経営基盤強化法等の改正）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の話合いにより将来の農地利用の姿を「地域計画」に定める。 ・地域内外から農地の受け手を確保し、農地の集約化を図る。 （⇒担い手に集約する方向だけでなく、いろいろな担い手がいてもいいのではないか） <p>○農業の担い手・農村の担い手</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「農家」の枠組みだけでは限定的 		

・「農村の担い手」としては、

【 認定農業者・組織経営体～～自給的農家～～新規就農・定年帰農～
～～土地持ち非農家・土地なし非農家～～顧客・地域住民・都市住
民

・その場合の「担い手」として

- * いわゆる「担い手」→スマート農業など技術を駆使
- * 息長くできる農業（愛媛県西予市の「百姓百品グループ」の例）
- * 新規参入の受入れ
- * 農福連携
- * 地域資源管理の担い手も必要・・・多面的機能支払交付金活動

☆三重県多気町旧勢和村の例照会

- * 水路沿いへのあじさい植栽運動から始まる
- * 農家レストラン「まめや」（バイキング方式）→農村文化の伝承
- * 住民みんなで水路の補修活動等
- * 小学校の学習活動と連携、父母らの参加等

○多面的機能支払交付金の活用

事務作業が大変

↓

事務機能の広域化の取組

- a 活動組織はそのまま、事務作業を JA や土地改良区等が請け負う。
- b 広域協定－活動組織間で協定を結び、活動組織の事務作業を支援
- c 活動組織の広域化－○○協議会など広域組織で事務局を担う。
ex 一般社団法人へ委託の例－新潟県見附市

○耕作放棄地の解消事例・・・放牧の文献紹介